

落花生作況調査及び 需給懇談会の開催

一般財団法人全国落花生協会

全国落花生協会では、毎年、落花生の主産県において、生産、流通、加工、輸入の各部門の情報を交換し、需給の安定に資するため、作況調査と需給懇談会を開催しています。

今年は9月15日に千葉県下で地元行政機関、関係団体等の協力を得て開催しました。参加者は、国、主産県行政・試験研究の担当者、生産者、産地及び消費地の加工団体関係者、輸入商社関係者等約70名が参加されました。

① 作況調査の概要

午前中の作況調査では、千葉県農林総合研究センター落花生研究室において、えだまめ動力脱莢機〔(株) ミツワ〕が落花生のもぎ取りにも活用できるとのことで展示実演がありました。シリコン製抜き歯で優しく確実にもぎ取れ、一部の農家では既に導入され始めているとのことです。また、ほ場では生育状況はおおむね順調との説明がありました。

富里市のほ場は、品種はナカテユタカで6月5日は種、ここ数年の輪作体系は平成26年スイカ、27年落花生、28年落花生と

なっており、来年度はサトイモにするとのことでした。畦幅・株間は65cm×30cmで10a当たりの株数は5,128株で、病害虫防除は7月16・17日にアブラムシ、褐斑病、ヒョウタンゾウムシ類に対し実施しています。作柄はおおむね順調でした。

② 需給懇談会の概要

午後からの需給懇談会は、成田市内のホテルにおいて開催しました。農水省からの挨拶、協会からは、農林水産統計や輸入統計により、最近の落花生動向について紹介し、続いて、茨城県、千葉県における平成28年産の生育状況、産地動向等の報告がありました。

また、農研機構から落花生収穫機について開発・導入状況等の説明がありました。千葉県からは、平成28年度から3年間の計画で革新的技術開発・緊急展開事業（うち地域戦略プロジェクト）により、「落花生の作付け拡大を支援する新体系機械化技術の構築と実証」の研究に取り組むとの報告がありました。

また、国内需要の約9割を占める外国産落花生の状況について、落花生輸入商社協

議会から中国、米国、南アフリカ、オーストラリア、アルゼンチン、ブラジル及びパラグアイの生産状況、今年の生育状況等について説明があったほか、大粒種落花生及び小粒種落花生の需給見込み等の報告があ

りました。

また、(一社)日本ピーナッツ協会からは、日本の落花生市場の現況と課題、大粒落花生の需要見込みについて説明がありました。



落花生脱莢機の実演



落花生研究室ほ場 生育状況



需給懇談会場